



研修旅行の挑戦～高知研修旅行実現まで

広島なぎさ中学校・高等学校
教諭 畑中 輝

1.はじめに

研修旅行や修学旅行というと、「知らない遠くの土地に行ける」という感覚を持つ人が多いのではないだろうか。そんな研修旅行で同じ中四国地方のたった150kmしか離れていない土地に行くとしたらどうだろうか。ドバイ、パラオ、日本一周などバラエティーに富んだコースがある中で、本校の新コース「高知研修旅行」は様々な面で挑戦の連続であった。

2.コース設定～3つの条件～

高知を研修旅行のコースに設定することになったのは3年前。ちょうど本校の中学2年、1年が6クラスになったときであった。すでに高校からの新入生を迎えることも決定し、それまでの8コースのままでは定員枠が小さく抱えきれないとの結論に至り、当時の角島校長の命で私が新コースの設定にあたることになった。

新コース設定には、いくつかの条件が課せられた。1つめはスキー研修などと同じように、何かしらの技能を取得できること(例えば魚を捌けるようになる)を視野に入れること。2つめは費用をやや低く設定し、誰もが選択しやすいようにすること。3つめは選択した生徒が、研修旅行終了後に自信を持ってその場所に行って良かったと思えるようにすること。以上の3点であった。これらを考慮していくつかの候補を検討し、選択した場所が高知であった。

前任校が高知にあった私は、各地方の特性や位置関係などの詳細を理解していた。さらに「同じ中四国地方

に属しながら近くて遠い県、高知」と生徒に説明したとおり、文化的にもまったく異なった様相を示すことも把握していた。それゆえ研修旅行にはうってつけであった。しかし、あまりにも距離が近いので、そのハンデを凌駕する、生徒が「近くても行きたい」と思う内容を盛り込むこと、これこそが挑戦であった。他にも、研修旅行であるので、何かを学ぶためのテーマ設定も必要で、高知県ならではの卓越したものを選択することが不可欠であった。

3.テーマ設定～海と地方創生～

高知の魅力はなんと言っても豊かな自然である。海・山・川に特長があるが、そのなかでも圧倒的な存在感を示すのが太平洋である。はるかに見える水平線は広島では味わえない。よって「海」を第一のテーマに据えた。まずは学問的に海を学べるように、高知大学農林水産学部と連携し模擬授業を設定していただいた。また、雄大な太平洋を感じられるようイルカの調教や目玉となるホエールウォッチングを設定。さらに、「瀬戸内とは異なる魚種にも注目し、マンボウやウツボなどの希少な魚を舌でも感じられるように、また、



豪快な鯉の羹焼き

おなじみのカツオのたたきでも魚を捌くところから行うなど工夫した。もちろん四万十川をはじめ他の優れた要素も生かし、鮎や川エビなど新鮮で珍しい食材もメニューに組み入れた。視覚と味覚に訴えたのである。

次にテーマとして考えたのが、限界集落対策である。ここで登場するのが過疎化と対峙した馬路村の奇跡である。今後広島県をはじめ多くの地域で少子高齢化が進み、限界集落が増加する。その危機に直面する世代である5年生にとって、地方の荒廃は大きな社会問題となるはずである。馬路村はそこにいち早く立ち向かい、克服した山間部の農村である。「ごっくん馬路村」などのヒット作を連発し、山間部の不便さを逆手にとった戦略を学ぶことで、地域創生のヒントを探り、将来社会のリーダーとして、今後増加する限界集落の活性化を果たす先陣的役割を担う能力を養えるのではないかと考えた。この「海と地方創生」を軸として研修旅行を組み立てることにした。

ただ、テーマとして地味な感じも否めず、各所を訪問するだけでは醍醐味がない。そこでもう一つ工夫を加えたのが「高知横断作戦」である。東西に長い高知県を一気に横断することで、同じ高知県内の文化や風土の違いも体感できる。また、高知県の人でもなかなかできない「横断」は、まとまった時間がとれる研修旅行ならではの企画と言ってよい。これで高知研修旅行の大枠が固まった。

4.最後の要素～人とのふれあい～

しかし、これだけでは上手いかわないことに気づいていた。もう1つ必ず加えるべき要素、それは「人とのふれあい」である。同じ観光先に何度行っても変わらないが、人との出会いはかけがえがなく、同じ出会いは二度とない。本校の研修旅行で人との出会いは欠かせない。それゆえ、旅行会社に方針を話し、必ず人との関わりを持たせて欲しいとお願いした。その結果メニューに加えられたのがこんにやく作り体験である。

これだけの要素を取りそろえて研修旅行対象の4年生にプレゼンを行ったが、2018年度の生徒にはまったく受け入れられず、希望者はたったの2名。実施に至らなかった。やはり近場は無理なのかと失意のもとでコースを修正したところ、2019年度は実に13名の希望者が現れた。これまでの努力が実り、ついに高知コースが実現すると思うと感無量だった。

【高知コース 日程】

1日目・7/22(月)
高知市内(高知城・高知城歴史博物館など)を自由散策
2日目・7/23(火)
高知大学訪問
海洋コア総合研究センター見学
室戸ドルフィンセンター
海洋深層水工場見学・ジオパーク研修
室戸岬・中岡慎太郎像見学

3日目・7/24(水)
馬路村役場訪問・JAゆず工場見学
こんにやく作り体験
4日目・7/25(木)
四万十川カヌー体験・鯉のたたき作り体験
足摺岬
5日目・7/26(金)
土佐清水ホエールウォッチング
桂浜龍馬記念館

【生徒感想】

- 高知は風景や風土などが全く違いました。豊かな自然を体感し、自然と共存する大切さ、そのための工夫などを学ぶことができました。また、皿鉢料理や鯉のたたき作り体験などから、食においても文化の違いを感じました。様々な経験を通して私は一回り大きく成長することができたように思います。(1組女子)
- 私は研修旅行高知コースで、自然について学ぶことができました。高知大学では海底鉱物・資源の開発について学び、海洋コア総合研究センター



イルカと触れあう

の最先端の地球科学分析装置などを見学しました。また、四万十川でのカヌー体験では大自然を満喫し、室戸岬では海水の浸食などによってできた荒々しい地形を目の当たりに、大切さを改めて感じるするなど、高知の自然を丸ごと感じることができました。(5組男子)

5.おわりに

実施後の生徒の感想は概ね良好で満足感にあふれていた。自ら捌き、わら焼きで焼いたカツオのたたき、ホエールウォッチングで鯨には出会えなかったが、偶然仕掛けていた釣り竿にシイラがかかるハプニング、馬路村で今後の方針について直接提言したこと～ここでしかできない思い出の数々を次々と生徒は語ってくれた。また、皆が口をそろえて良かったと言ったことは、食事の豪華さ・旨さと人の温かさということであった。当初の狙い通りである。高知県のみにとどまり浸かった研修旅行のメニューを聞いて、現地の人はびっくりすると共に高知県を丸ごと回る本校生徒に愛着と親しみを覚えたようで、バスガイドをはじめ現地の人々が全力でサポートしてくれたのも生徒にとって良い経験になったことだろう。これからも高知という「近くて遠い」地域を満喫してくれる参加生徒を待ち望んでいる。



四万十川カヌー体験